

公募対象技術における土地の条件

条件	ケース①	ケース②	ケース③	ケース④
地形	東京低地	東京低地	武蔵野台地	武蔵野台地
敷地（対策）面積	200㎡以下	300㎡以下	200㎡以下	300㎡以下
汚染状態	VOCs（主にエチレン系）第二溶出量又は第二地下水基準超過	第二種特定有害物質第二溶出量又は第二地下水基準超過※1	VOCs（主にエチレン系）第二溶出量又は第二地下水基準超過	第二種特定有害物質第二溶出量又は第二地下水基準超過※1
汚染が存在する地層の区分	砂・シルト層（有楽町層）	砂・シルト層（有楽町層）	ローム・砂礫層	ローム・砂礫層
地下水位	GL-1～2 m程度	GL-1～2 m程度	GL-10m程度	GL-10m程度
最大（適用）汚染深度	10m程度	5 m程度	20m程度	15m程度
地下水流向	不定ではなく何れかの方向に流れているものとする			
区域種別（法）	形質変更時要届出区域			
区域種別（条例）	地下水汚染拡大防止区域			
対策目標	条例指針における要管理区域とする※2、3、4			
現場条件	上屋無し土間基礎のみ、建物密集地、接道4 m以下			

※1：主に六価クロム化合物を想定

※2：透過性地下水浄化壁による地下水汚染の拡大防止の場合は、2年間モニタリングで第二地下水基準適合

※3：地下水汚染の拡大防止措置は複数の技術を用いた対策も可（汚染土壌の一部を掘削除去することも許容）

※4：第二溶出量基準超過土壌に対する不溶化対策も可

- ・技術公募に当たっては、上記記載の条件下で施工可能な技術を標準として申請を行うこととする。また、汚染状況や土質、敷地面積等、設定条件が変更となれば施工可能である場合、「地下水汚染の拡大の防止技術応募申請書」にその旨記載の上で申請すること。
- ・各ケースの汚染状況等の例を次頁以降に示す。（2頁目以降は募集するケース①から④の例示として記載）
- ・概算費用の算出に当たっては、当該工法に対する直接工事費とサイト特有の条件に係る費用（主に仮設費用）を分けて算出するものとし、前者は一般的な費用を後者は例示条件を踏まえた概算費用とすること。

ケース①

VOCsによる汚染が粘性土層にまで到達している事例

(具体例)

- ・地下水位：GL-1~2m付近
- ・代表地点兼対象地境界とし、敷地外への高濃度地下水汚染の拡散防止を想定
- ・想定敷地面積は、200㎡だが、主に洗濯業のような間口より奥行が広い長方形狭あい地での技術適用を想定

(第一種代表地点の想定汚染状況)

深度	テトラクロロエチレン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)	土質区分
表層	0.06	0.0005	埋土
GL-0.5m	0.09	0.0001	
GL-1m	0.05	ND	細砂
GL-2m	0.011	0.003	シルト質砂
GL-3m	ND	0.006	
GL-4m	ND	0.009	
GL-5m	0.0005	0.09	
GL-6m	ND	0.07	
GL-7m	ND	0.04	シルト
GL-8m	ND	0.007	
GL-9m	ND	0.004	
GL-10m	ND	ND	
GL-11m	ND	ND	
地下水	0.16	0.01	

ケース②

重金属による汚染が高濃度であり、かつ、間口が狭い事例

(具体例)

- ・地下水位：GL-1~2m付近
- ・旗竿地のように間口が狭く、周辺建物が近接している条件において、比較的深い重金属汚染に対する技術適用を想定

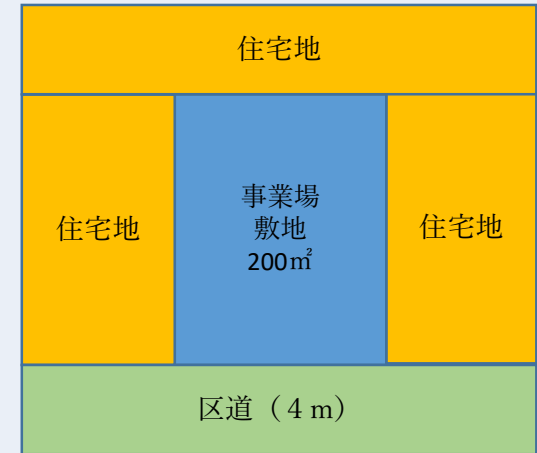
(第二種代表地点の想定汚染状況)

深度	六価クロム (mg/L)	カドミウム (mg/kg)	土質区分
表層	100	250	埋土
GL-0.5m			
GL-1m	70	70	
GL-2m	18	ND	砂質シルト
GL-3m	3.0	ND	
GL-4m	0.73		
GL-5m	0.12		
GL-6m	ND		
GL-7m	ND		
地下水	800	—	

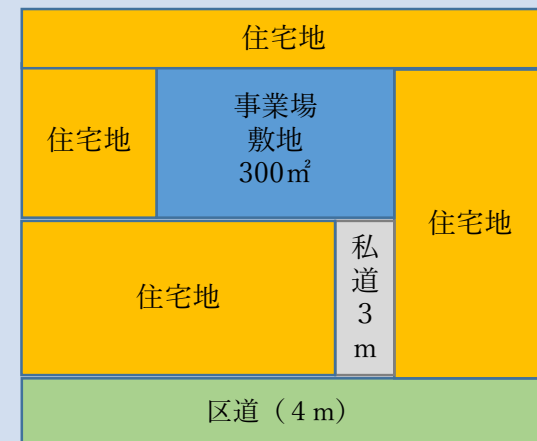
対象地境界地下水	濃度 (mg/L)
六価クロム	ND

対象地 (土地形状)

ケース①



ケース②



ケース③

VOCsによる汚染が深く対策が困難な事例

(具体例)

- ・地下水位：GL-10m付近
- ・対象地境界は代表地点とは別に設定されているものとし、敷地外への高濃度地下水汚染の拡散防止を想定
- ・想定敷地面積は、200㎡だが、主に洗濯業のような間口より奥行が広い長方形狭あい地での技術適用を想定

(第一種代表地点の想定汚染状況)

深度	テトラクロロエチレン (mg/L)	土質区分	深度	テトラクロロエチレン (mg/L)	土質区分
表層	0.15	盛土	GL-11m	0.34	粘土質砂礫
GL-0.5m	0.14		GL-12m	0.14	
GL-1 m	0.012	ローム	GL-13m	0.02	
GL-2 m	0.007		GL-14m	0.005	
GL-3 m	0.06		GL-15m	0.03	
GL-4 m	0.04	凝灰質粘土	GL-16m	0.04	
GL-5 m	0.06		GL-17m	0.04	細砂
GL-6 m	0.14	ローム	GL-18m	0.14	礫質細砂
GL-7 m	0.19		GL-19m	0.19	
GL-8 m	0.4		GL-20m	ND	粘土
GL-9 m	0.38		GL-21m	ND	
GL-10m	0.38		地下水	1.1	—

対象地境界地下水	濃度 (mg/L)
テトラクロロエチレン	0.4

ケース④

重金属による汚染が高濃度であり、かつ、対策深度が深く困難な事例

(具体例)

- ・地下水位はGL-10m付近
- ・周辺建物が近接している条件において深い重金属汚染に対する技術適用を想定

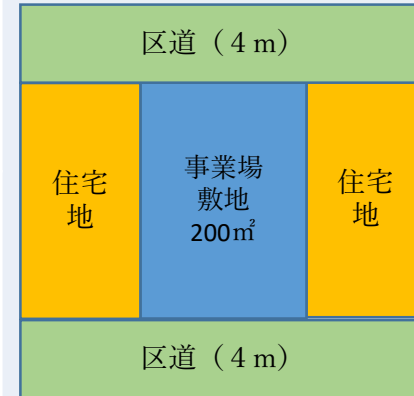
(第二種代表地点の想定汚染状況)

深度	六価クロム (mg/L)	六価クロム (mg/kg)	土質区分
表層	700	7700	盛土
GL-1 m	850	10000	
GL-2 m	1100	14000	
GL-3 m	800	8300	ローム
GL-4 m	1500	2000	
GL-5 m	1300	1700	
GL-6 m	800	8800	
GL-7 m	350	4000	
GL-8 m	500	6200	シルト
GL-9 m	510	5400	
GL-10m	220	2600	砂礫
GL-11m	45	530	
GL-12m	0.04	ND	
GL-13m	0.09	ND	粘土混じり砂礫
GL-14m	0.07	ND	
GL-15m	ND	ND	
GL-16m	ND	ND	
地下水	63	—	

対象地境界地下水	濃度 (mg/L)
六価クロム化合物	10

対象地 (土地形状)

ケース③



ケース④

